

隨想三題

カット／津高和一

若いものは……と例の苦情を彼等の上役から聞かされたばかりでしたので。



このごろ 思うこと

新 海 範 子

（工芸家）

こんなご経験はおありではございませんか？田舎の家などに行つたとき、まず仏様にと仏壇に導びかれたり、仏間にとまらされたりなさったことを。私は互いの消息が不明になつた遠縁をたづねる祖母のともで九州まで行つたことがありますが、感激の対面りますと通されたのが仏壇の前で、『仏様のおかげで……』と手を合わせらせら

れたわけでした。それは戦後もない頃ではなかつたのですが、まだ仏様どころでない世相でしたので私は強い印象を受けました私はまた会津の山で道に迷い名前も告げないうちに里の人の仏間に導びかれたことがあります、季節の花の供えられた仏様の前での心豊かなおもてなしに迷つてよかつたとさえ思つたことでした。

そして合掌づくりの民宿を尋ねて五箇山を行つたのは昨年の秋ですが、仏壇にお線香があげられた時出張帰りにいやいや連れてこられた新卒社員が揃つて手を合わせたのに私は興味を持ちました。なぜならそのすぐ前に『この頃の

「神社や寺院の拝観の時は神様や仏様に『今日は!!観せていただきます』とまず挨拶なさい。それがエチケットというものですよ』とは文化財の仕事をなさつてゐる先生のご注意ですが、訪問先きの仏壇の前で『今日は!!お邪魔します』と言えたらその家の守護神の許しを得た安心とその家の住人の心もちが汲めることでより楽しい時を過ごすことができるでしよう。

だけど現実にはご先祖様はうとんじられていらっしゃる。わずかにカーテンのかげや押入れの中から遠慮深く見守つていらっしゃる

それは現代の家屋の型や材料や色彩などとの違和感から心ならずも隠されていらっしゃるのなら漆工芸に手を出した私も含めて、もの

をつくるものの責任に思えます。でおそまきながらも現代の聖壇を……と思うのですが、現代人に満足を与えるデザインともなれば画家や彫刻家や建築、心理、宗教などにたずさわるものが協力しなければ……と思えるのですがいかがなものでしよう。

私は思うのです。現代生活にふさわしいものさえできればもうしめたものと。その愛着品はきっと毎朝毎晩磨かることでしようか

ら。そうすればご先祖様との対話も復活するでしょう。そしてなによりすばらしいことは、磨きに磨くことによってなにかが加わり法隆寺のあの玉虫の厨子一無数の虫を犠牲にしたことで工人のなやみがさとりを開かせいつか厨子の美にプラスアルファをもたらしたことと思うのです——や椿文様の鎌倉彫りの笈のように——中尊寺藏のは義経の家臣の所有品だったとは寺伝にしてもあの難路をみちのくの果てまで運んだのは信仰以外のなものでもないと思えるのです——後の世の人の心を魅くものが創られていくでしょう。そして私の夢は無限に拡がります。信仰をよりもどした人々は自らの信仰の深さを自らの手で創ることによって納得するようになるのではないからしらと。キリストのマリア親音やかまどの上の大黒さまや野の仏みたいな、なにかをつくることによつて。

亨 な
おじき

前 田 博 二
（そごう百貨店宣伝課長）

大正の頃、黒い貨客船が真昼の神戸港を出て行つた。春を告げてやつて来たおびただしいかもめの

群が出船の上に舞つていた。へん、へん、おじきは、それきり日本の土をふむことがなかつた。

へん、おじきは、白い熱御飯に白い砂糖をかけて食べるのが好きだった。小説のまねごとを書いたが、そのベン字はみんな右さがり

であった。醜男に醜女ぞろいのおじきおばごたちのなかで、このへんにおじきだけは眉目秀麗の文字どおり日本人ばなれをした美男子だった。

へん、おじきは、明治の日清戦争と日露戦争の間に生まれ、後藤新平にかわいがられた大じいが自由主義者であった影響をうけたのか、当時の大正初年頃の風潮を代表する思想的ハイカラ青年であった。

へん、おじきは、数え年二十一のとき徴兵検査をボイコットして広い日本で誰もがやらないようなことをやらかした。へん、おじきは、鬼の憲兵にらちされ何年かの間クサイ所でクサイ飯を食つた。

服装あれこれ

新 谷 沢 子

（彌刻家二紀会）

その当時大陸植民經營を唱えて飛ぶ鳥もおとす勢いだった後藤新平の身内の者とか何とかいうことでもあったのか、そのうち二千人も三千人の手下や部下が出来たということだった。へん、おじきは、その頃大陸なんかで輩出した政治浪人か、いわゆる國士といった連中同様の仁侠の世界におちて行つたのかも知れない。マレーの虎は何人もいたといわれるが、某月某日、ヘルメットに真白の乗馬服スタイル、貴公子然としたへん、おじきの写真と遺髪が届いた。添書きには簡単にマラリヤで没したとあった。

男、美女の比較的に多いイタリア人にとってはまったく大変なことであったが死ぬほどのことではなかった。しかし、へん、おじきにとっては、まともに生きてゆくすべも道も失つてあつた。へん、おじきは、日本を脱出してシンガポールで根をおろした。アメリカに留学して個展準備も進んだ頃、その機会を断念して渡

欧を決意したことが残念ではあるが、兄の仕事の都合で、早くアメリカを切りあげてローマで出合、ヨーロッパ各地を約四ヶ月にわたり、兄の運転の自動車を足として美術研修の旅に出たことが、別な意味では収穫が多かったかも知れない。

まず、初めてアメリカに着いて感じたことは、原色を用いた服装の女性がやたら多く、日本人の感覚では派手に思われるような色柄物でも、躊躇することなく身に着けている老婦人が目立つことで



ローマにて 右より 新谷沢子・映子・秀紀

街では見かけられず、昼夜の服装が異なるのが常識のようでもある。アクセサリーの類もイミテーションを好みます、さすがに

ある。日本人は概してこのような色や柄物は着られないという先入観があつて、年をとると地味好みの黒っぽいものをまとう結果となるが、その点外国、とくにアメリカ女性は年令にはお構いなく、自分に似合う色や好みに合ったものを選んで着るというのがお洒落のようである。ちょうど、オップアートの流行していた頃だっただけに服地のデザインにそれを採用したのも多く、ドライな気候風土に恵まれたキャリーフォルニアでは、それが不思議と自然とも調和しているのである。

そして、一般的にはオーブンな服装であるアメリカに対しイタリアでは、宗教が生活の支えになっている国だけであって服装には厳格であるのが、スラック姿もあまり

伝統を重んずる国民性の一端がうかがえた。

最近流行しているブーツもヨーロッパの皮革製品は質が良く、とくに国の地形に似たイタリアの靴は優秀であり、女性の半数以上が良い格好のブーツをはいているがやはりブーツの本場だけのことはあると思った。しかも、スカート丈とのプロポーションを考慮しているのも見事である。

世界的な傾向で、下火になつたとはいえミニスカートが未だに横行している時代である。そんな中で日本人旅行者の服装は、何となくやばったくさえ感じられるのである。と同時に、日本人の挨拶の仕方も気になつた。何回も頭を下げておじぎをしている日本人を見て、どうしてそんなに頭を下げなければいけないのか、とアメリカでもイタリアでも土地の友人によく問われた。相手がそりかえつているのに、ペコペコ謝つているような図は余り感心したものではない。

良い面は見習うとしても、服装の好みは何といつても、気候や風土の生活習慣の相異から必然的にそのスタイルやカラーが生まれてくるものであり、自國の風土にマッチしない様式の模倣は不自然なものである。

★ある集い★その足あと

神戸ブラザーフッド

湧井安太郎

神戸ブラザーフッド (KOBE BROTHER HOOD) という名をもつてはいるが、会則もなければ会長も定めていない。今になつてはいつ創設されたかすらだかでではなくた。ただこの会にはあきらかな前身がある。あるいは前史があるといつてもよいだろう。

アメリカに WORLD BROTHER HOOD という組織が生まれたのはいつのことか知らないが、その組織から日本にも同志を求めてきた。十五・六年前にならうか。当時、神戸大学経済学部の教授であった水谷一雄先生、ボイ・スカウトの杉村先生などが重唱されて神戸支部をつくろうということなり、そのころまだ若かった私は今でも会員の中では若僧だがに難務担当を求められた。

アメリカの本部からアジア地区担当のハワイ大学教授、シャイマ一氏が両三度来日され、東京、横浜、長崎等々にも支部が結成された。神戸では少数の会員で月例会をもち、実にさまざまなテーマにもとづいて地味な話しあいの集まりがつづいた。

「生産性向上」の問題をめぐつて労資の見解が鋭く対立したとき

である。経営者側と労働組合側とからゲストを招き、会員の当時関西学院大学教授であった経営学の池内信行先生のご説を、みんなでうかがつて話しあつことがある。「勧説」問題で教育界が揺れる中で、その渦中の人である会員、当時兵庫県教育委員、矢部利茂氏から、なまなましい感想をうかがつて、きたんのない意見の交流をしたことがある。

時事的なテーマだけでなく、水谷教授得意の新しい数理経済学の話、竹内教授の社会福祉論、堀教授の英文学と宗教の話などと話題はつきなかった。その間、会場も当時の神戸生協本部（現在の灘神戸生協山手センター）から出発して銀行クラブ、レストラン白樺、舞子ビラ、コラル北野、ニューリバーガン、そしてプラン・ド・プランとジブシーのように転々とした。

けれども日本の方は種々なる事情があつて発展しなかつたし、アメリカの本部とも連絡がとぎれがちになってしまった。その間には会員の身辺にも少しづつ変遷があった。その中でも水谷教授が名古屋の南山大学に移られる頃から、例会も二ヶ月に一度といつになつた。これは杉村先生のいい出しで、水谷教授を神戸から離さないことにしようという願いからであり、例会日には水谷教

授は万難を排して名古屋からかけつけられるようになった。

その頃竹内教授は、われわれ個々の名前をもとうといわれて、神戸ブラザーフッドはどうかと提案された。誰も反対する人もなく決定した。

この頃の例会では大学問題に花が咲く。会員のおおかたは、何らかの意味でその渦中におられるかたが多い。若い頃の自らが経験してきた大学、広く世界の大学で学んだ頃の想い出、そして今日のきびしい大学の現実。それらのことが複雑な想いをなして話はつきない。会員の多くはようやく肺、晩年に達しようとする人々である。

けれども、若い学生たちの求めているものは何か、大学のあるべき像と、日本と世界の今後はどう動いてゆくだろうと、深刻かつ真剣な話がかわされるのである。

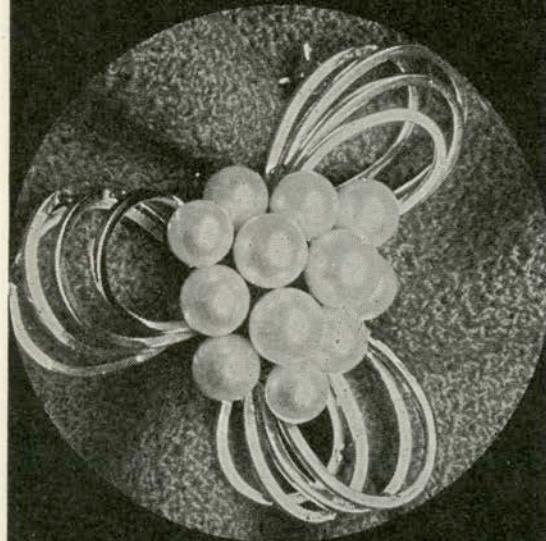
二ヶ月に一度では、急テンポで動きつつある今日の時代に間のびしたような集まりであるが、自由友情にあふれた一夜を楽しみに私たちはその日を忘れないものである。

メンバーを紹介しよう。

小林芳夫 水谷一雄 池内信行
佐藤順子 原 忠明 湧井安太郎
竹内愛二 堀 正人 杉村 伸
矢部利茂 加持末一 中村千鶴子
といった人々が常連になつてゐる
ハグラビヤ七頁参照

Kitamura Pearls

世界の人々に愛される
キタムラパール



北村真珠株式会社

神戸：元町店 TEL (33) 0072
東京：スキヤ橋店 TEL <571>8032



四季それぞれに美しい！

小豆島へ

★四国へはおらくな昼便・
日曜便をご利用ください

■ 時刻表

	大阪発	神戸発	土庄着	高松発	高松着	神戸発	大阪着
昼 便	14:30	16:00	→	20:20	14:10	→	18:30 20:00
夜 便	21:30	23:00	3:30	4:40	22:00	23:20	4:20 6:00
日曜 便	6:30	8:00	→	12:20	7:20	→	11:40 13:10

■ 料金表

		神 戸 · 大 版										
		土 庄	4,920	2,590	2,460	1,690	1,430	1,070	940	770	930	540
高 松	300	150	5,000	2,630	2,500	1,720	1,460	1,090	960	790	940	550
等 級	特別	特等	特等	特等	1等	1等	1等	1等	特別	2等	2等	
等 級	2等	2等	こ はく あ の う き ん こ	こ はく あ の う き ん こ	1等	1等	1等	1等	2等	2等	2等	
等 級	日	日	こ はく あ の う き ん こ	こ はく あ の う き ん こ	洋室	洋室	洋室	洋室	日	日	日	洋室
等 級	2人	2人	2人	2人	1人	1人	1人	1人	A	2人	2人	2人

加藤汽船

神戸案内所
TEL (33) 8532

御入学 御就職に 正しいめがね

しゃれたセンスのメガネを
豊富に取揃えております



*ニコンレンズズフォトグレー新発売

陽があたると濃くなり室内に入ると
色が淡くなる理想的なレンズ

*弱視眼鏡、補聴器、光学関係

の事ならなんでもご相談下さい

★

顕微鏡・天体望遠鏡・航海計器・光学器一般

服部メガネ店

大丸前 TEL (33)1123

デセールショアジ

数々の花々がそれぞれの美しさで
咲き誇るように、ショアジは文字
通り選び出された味の王様で一つ
一つに深い思いがこめてつくられ
ています



500~2,000

神戸にそだって 70年

 **月堂**

元町3丁目 TEL 03-2412-5

さんちかスイーツタウン TEL 03-3455

神戸市献上の 壁画

飛松 実え・津高和一

新宮殿へ納入された東山魁夷画伯の、壁画「朝明けの潮」の、原寸大(5m×15m)の下絵ほか、スケッチ、色下絵、制作過程写真などが、神戸大丸で展覧(2月18日-23日)され、多くの人々に深い感銘を与えた。

あのような大作になると、構図を決定するだけでも、大変な苦労だということがよく分かつた。神戸にゆかりの深い画伯(神戸二中出身)が、無事完成納入されたことは、神戸人の一人として、心から同慶に堪えなかつた。

会場をめぐりながら、私は、昔、神戸市から献納された故金山平三画伯筆の壁画を、思い出していた。

明治神宮外苑に、聖徳記念絵画館というのがある。明治天皇のご誕生から、ご大葬までの主要な出来事を、日本画、洋画各々四十点、計八十点の壁画として納められている。

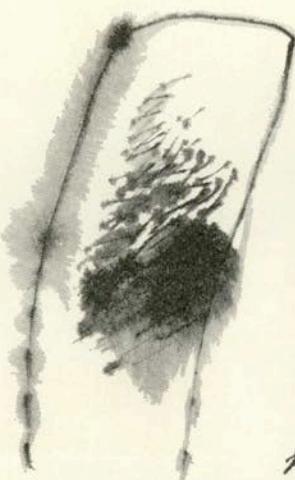
一昨年の秋であつたか、上京中小暇を得て訪れてみた。広い館内にひびくのは、私の靴音だけで人影は殆どなかつた。所謂美術ブームの昨今、ちよつとした展覧会にも、驚くほどの観衆が集まる

のに、修学旅行生など、なぜこの壁画館へ引率されて来ないのだらうかとひとり思った。画材が特定のものに限られているとはいえ、大正末から昭和初期に於ける代表画家達の、文字通り精魂を傾けた秀作ばかりが並べられているのである。

聖徳記念の一つとして、絵画館が建設されたととなつた時、神戸市も壁画一点を献上すべく、当時の石橋為之助市長から、神宮奉贊会を通じて、郷土出身の金山画伯(当時帝展審査員)に揮毫を依頼したのが、大正十三年十一月であつた。画題は「日清の役平壌の戦」と定められた。爾來画伯は、史実の調査、場所の選定、構図の選択などに人に言えぬ苦労を重ね、漸く昭和九年に完成献納することが出来た。即ち前後十箇年を要した画伯畢生の大作と言つてよいものである。

その完成が余りにも遅延したので、市会などでも問題となつたらしい。昭和七年八月十四日付の神戸新聞に、神戸市土師秘書課長談と金山画伯談とが載つている。

奉納の壁画は大正十三年石橋前市長當時、七千円の契約で揮毫を依頼しましたが、去る三月



木

二十七日、督促のため上京しました処、目下絵具の変色工合を試験しているという話でした。

大芸術家が、一生の思い出に傑作を奉納するのですから、督促がましいことは言いたくありません。神戸市八十万市民の、熱誠こめた献上物にふさわしい名作として奉納したいと、金山画伯の手腕に満腔の信頼を置いて期待しているわけです。

苦心と言えば、殆ど失敗だらけという一語につきる。戦争の画と言えば、大抵場面を広くとるものであるが、これは縦九尺横八尺で横が狭いものだから閉口した。時は明治二十八年九月十五、六日、場所は平壌、朝のうちは天気が良かつた。戦うものは日本と支那、これが条件だ。

平壌の場所については写真も参考にしたが、古い写真がないので閉口した。戦況も、一人一人聞く人によつて違うので困つた。構図は遠く平壌の町を望んで戦つているところである。

画伯夫妻は、当時借家住まいであつたから、まづアトリエの必要に迫られた。幸い土地は、夫人がお茶ノ水女高師教授時代の貯金五千余円で、前年（大正12・6）百五十坪（坪当り三十五円）を下落合に求めてあつた。建築費一万円は、絵の深い理解者が三井銀行の三井高精、同亀島重役、鐘紡社長良尾良吉他一氏の援助を得て建築することが出来た。大正十四年四月であつた。そこで画伯は同年九月から十月末まで、自ら渡鮮して平壌を中心に実地を調べた。帰国しては陸軍被服廠に当時の軍装を調査し、スケッチなどした。スケッチと言えば、ほかに軍馬、武器、軍旗、兵士などを、色々の角

度から克明に写生したものが、数多く残されています。夫人の話によると、

少しでも不純な気持ちが動いた時は、筆を執りませんでした。嫌な人が訪ねて来たりすると今日はやめだと筆を捨てていました。あの壁画には、主人の誠心誠意が、隅々までこめられています。

その苦心と努力の甲斐があつて、今も作品は一段と光を放つてゐる。かつて朝日新聞が「戦争美術展」を開いたとき、画伯はその下絵を出品しました。当時の朝日の記事を擧げる。

我が文展の事実上の産みの親、牧野伸顕伯が来場、流石美術界の元老として堂々たる鑑賞をつづけ、洋画では、玄人受けのいい金山平三氏の「平壌の戦」の図を絶讚、「日本の戦争画は、西洋のそれと異なつて美しい。毒々しさがない」と総評。（昭13・5・31東京朝日）

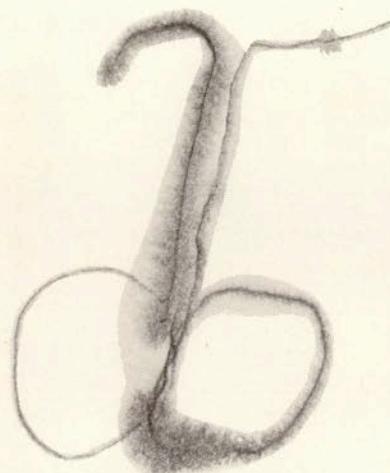
ところで、私が今遺憾に思つるのは、こうした長い年月をかけた苦心の名作を、契約に当つて市当局が、つまらぬ物品購入と同じ態度で不当に値切つてゐることである。神宮奉讚会提示の標準値は一万円であつた。それを神戸市は半値に近い六千円にしてほしいと申入れたが、奉讚会は突き返して再考を促した。その結果、市会が承認しないからと、遂に七千円で押しつけるように依頼して來たのであつた。

経緯の詳細は「金山平三画伯小伝」（雑誌「絵」に連載中）に譲るが、市のためにも、画伯のためにも残念でならない。

バレーボールに

咲いた 恋の花

若林与左衛門
え・津高和一



わ

スポーツは男性の花といわれ、男と生れてはス

ポーツの選手たらんと思う。正にスポーツの選手は少年のあこがれの的と思われる。筆者も子供の時分、体が弱かつたのでスポーツはやれなかつたが、スポーツに大変なあこがれを持ち、少年時代は野球の投球、捕球または打撃のポーズを巧みにかき、親を驚かしたものだ。スキー、スケート、体操、庭球、バレー・ボールのような男女共にやれるスポーツにおいて、女子の選手が男子のスタープレーヤーにあこがれをもつことは天の自然の結びつけと思う。男子の大会に女性のファンのカン

るものである。

他の競技のことは知らないがバレーボールに於いて日本の代表チーム、実業団、または学連のトップクラスのスター・プレイヤーに対する女性の声援は応援を越えた何ものかがあると思われる。今の若い世代のことは我々老人には判らないが、今を去ること四十年前に、神戸高商が全国に勧を唱えた頃、矢頭（日本協会副会長）、中村（朝日新聞大阪本社代表）、井上（日本毛織取締役）、張（故人）、松本（故人）、百々（椿本チエン常務）、安居（日本毛織取締役）、江畑（自営）、鎧（京浜工事）、足立（日東毛織取締役）等の精銳が日本のス

ターとして女性ファの声援を浴びたものである。

声援が尊敬になり、あこがれになり、段々話が深刻にという順序である。筆者の時代はその前時代

でバレーボールの試合の数も多くなくファンに親しまれる試合も少なかった。我々は、大正十二年の極東オリンピック大会に比、支に惨敗を喫してから国内の普及が第一ということで男・女、各層の指導開発に献身した。筆者の主として指導したのは岡山一商、神戸一中であり女子では姫路高女であった。

岡山一商（現在の岡山東商）は中国地方に於いて一時覇権を握ったこともあり、神戸一中は母校でもあったので相当努力した。八高の大会や他の大会に優勝し、また八高、関学、東大、慶應、早稲田のバレーボール部開発の中心となつた名選手も一中から進学したものがありその貢献した度は大きかったと自負している。姫路高女は同じ極東大会に出席し、比、支を破つて優勝したこのチームは二、三度同僚と姫路へ行つてコーチしたもの。その縁で、姫路の兵隊時代及び、その後数年にわたりコートをし、同地方の随一のチームとなつた。また同僚の西川（現日商岩井社長日本バレーボール協会会長）は神戸県一高女のコーチであり吉保は神戸市一高女のコーチをし、西川がした県一是上海の極東大会で優勝した。筆者も彼等の手伝いとして県一や市一にも時々顔を出したものである。

男子選手と女性ファンとの結び付き以上にコートで共に汗をしぶり、時には共に遠征し勝つ。

ても敗れても涙を流しあう正に苦楽をともにするものであり、その苦楽が生涯に延長して結婚に進展した例も多い。

故人の松本と椿本の常務百々がそれぞれ帝国女子薬専の選手と、第三神港で鳴らしオリンピックにも出た打越が、また数えると、大阪協会理事増本（高津中学）は鐘紡の女子名選手三好娘と、その他日本バレーボール協会の新理事長岡田（早大マネジャー）、同志社より八幡製鉄に行き日本代表になつた河村、関学マネージャーであった岡等の名選手が各々スイートホームにゴールインした例が多い、何れもコートの苦楽と共にした体験が夫婦生活にも実践せられ、円満な家庭のようである筆者の姫路時代の選手諸嬢、今はもう大抵孫のある六十前後の婆さん連中だが、未だに一年に一度位は集つてくる。昨年は七月に姫路で今年は三月に拙宅で若き思い出を語り、或は拙宅では廻り点前でお茶をたてる人もあり、幼稚園（六甲幼稚園）でバレーボールのバスをやつたり、若き日を偲んで遊遊の一日を楽しんでいる。二、三年前のその会で、筆者がコーチを行つていた頃、姫路の寄宿舎にいた選手が筆者のユニホームを争つて洗濯話も出て、今もなおなつかしく若き日の思い出を語りあうのである。

かく申す筆者はコーチした相手ではないが、親戚の娘で、愛知県一でバレーボールをやつていたのがどんな拍子か結ばれ、四十年近くの結婚生活は、ますますスイートホームといえよう。

鯉と猫と フ ラ ク シ ョ ン

十 河 嶽

△隨筆家▽

画家の小出橋重さんの末亡人のおうちに飼われていた真白い短毛ペルシャの牡の仔猫をもらったのは、もう二、三年も前のことだった。その親猫はなんでも、猫好きの谷崎潤一郎さんのお宅にいたそうだ。その作品「猫と庄造と女たち」の、芦屋を背景とした小説の中で活躍したミケの一族だったのかもしれない。

うちへもらってきた猫は純白で、とても元気な仔で、耳のうしろのあたりは白い毛の下から桃色の地肌がすけてみえ、ほんとに美しい猫だった。名前もしおらしく雪となづけた。仔猫のうちは綺麗な猫で、誰もみな抱きかかえてみたいと思うほどだったが、とても機敏でじっとひとに抱えられてのどを鳴らしているようななまやさしい仔ではなかつた。風におられるカーテンの裾が、いい遊び相手で、下から爪をたてて馳けのぼる猫はよくあがるが雪は、一気に下から今まで馳けのぼり、山形に反対側を勢いよく駆けおりるばかりか広いカーテンを縦横十文字に暴れまわつた。

だんだん成長して一人前になると、しだいに夜遊びがひどくなってきた。昼は縁ばたでのうのうと昼寝をしていて、日の傾くころになるとランデブーに出かける。沈丁花が匂うころになると一晩として家にとどまることは

なかつた。おびきだしにくる恋猫とかけ合う嬌声は實に物凄いものだつた。

そのころ、神戸市の工場送水用のトンネルを掘るために労務者の飯場が裏の山陰にたてられて、作業員が食い残しの飯が豊富なために雪は出奔して、しまいにはそこで暮らすようになった。雪の精力は輪をかけて猛烈になり、近所で生まれる仔猫はどれも白くなつた。フリーセックスの猫の世界の新現象には全く驚いた。もちろん雪の愛欲のかたみであろう。それらの仔猫がさらに仔を生んで二、三年とたないうちに、近所の猫はほとんど白くなつてしまつた。停留所まで急いでいると路傍をうろちょろする白い猫の姿がよく眼にとまるのだが、いつもなにか尻こそばゆい思いをしたものだ。それにしてもまつたくあきれかえるほど、絶倫な雪の精力であった。その後、ある雨の朝、夜遊びがあまりにも過ぎためか、やつれ果て、草原で斃れている雪をみつけ、何かの縁と思って花壇の近くにほおむつてやつた。近ごろの庭は芝生もすっかり枯れてしまつて荒涼たるものである。その庭の片すみに中国産の竜のはりつけのついた大きい瓶（かめ）が二個ならんでいる。これは中國からピータンを送ってきた容器である。

一個には和金が二尾いるが、他の一個には十五センチぐらいの鯉が一尾だけ冬眠している。去年の晩夏に魚でも淋しいだらうと思つて三尾入れておいたのだが、雨が降りつづいて、水があふれそうになつた時に、自由を求めた鯉ははねだして行方不明になつてしまつたのかも知れない。今年は暖冬とはいふが、冷たい日も多くて七、八センチも瓶に氷が張つたことはめずらしくない。生き残つた一尾の鯉を掬い網ですくいあげてみたが、大きく成長しているのには驚いた。だがどうしたことか尻尾のあたりになるとあるはずの鱗がないのである。

古い話だが、日本が第一次世界大戦に参加した膠州湾の戦役の直後である。農村に蛋白を補給しようというのでドイツからドイツ種の鯉が輸入された。百尾あまり、

より抜き鯉が日本に輸入されることとなつた。シベリヤ鉄道で揺れているうちに、長い汽車旅の疲れで、ドイツ鯉の大部分は死んでしまつて、日本についたのは僅かに三尾しか残つていなかつた。元冠の役の場合とは反対である。ドイツ鯉はおそらく繁殖力が強いうえ、成長度がはやかた。ドイツ鯉は鏡鯉ともいわれているぐらに鱗が少なく、ほとんど無いといつてもよかつた。ヨーロッパの料理屋では鱗をとる手数がはぶけるといふのでこのドイツ種の鯉は料理屋で重宝がられていた。この種のドイツ鯉がなめらかな柔肌をもつて日本鯉を誘惑したというわけではないが、生きのこつた三尾のドイツ鯉は内地の養鯉地に放たれると、たちまち精力絶倫さを發揮して日本鯉族に大変な影響を与えてしまつた。

鯉はいちめい六六魚とも、九九魚ともいふ。六六は三十六で背面の一列の鱗が三十六枚並んでいたからである。九九魚とは、鯉は出世魚で長じてつには百となり、竜に化して天に昇るという説があつた。たしか「源平布引瀧」という歌舞伎の序幕だったと記憶するが、神戸の布引の瀧壺に住んでいた大鯉が竜となつてジャラン、ジャランと雷雲に乗つて昇天するという場面があつた。めつたにやらない場面だ。日本鯉は三十六枚正確に鱗が横に

ならんでいた。ところがドイツ鯉が日本の池にとびこんでから日本鯉の鱗の数に異変が生じ、頭の方に鱗があつても尻尾の方はずんべら坊といつた氣味の悪い鯉があつた。

ついにはドイツ鯉の旺盛な精力は、まさに全国の鯉を混血児化しようとさせた。近畿地方の鯉がうけた影響は大きく、たいがいの鯉は混血の鯉となり果てた。昭和十年ごろであるから、これは一大事と、鯉の純血運動が播州の一角からおこりだした。いまは近畿大学水産学科の金魚博士で通つてゐる松井佳一博士らもその有力な主唱者の一人だつた。三十六枚の鱗がそろつた純血の日本鯉の種族を絶やすまいという運動だつた。うちの鯉もやはりドイツ系なんだろう。

こうして精力の旺盛な猫や鯉のことを考えてゐると、ふといまの世の中を震騒させてゐる急進的な学生運動のフラクション活動の活発さを思ひうかべた。あの大学は五人のフラクによっておちるところみれば、フラクションを五名投入すると間違なく大学は動搖する。その大学の一般学生の意識の程度に応じた数のフラクを投入することにによって着々と成功をおさめている話だ。

このフラクション活動は昭和初年当時の労働運動から用いられてきた左翼戦術である。フラクションはアジテーション・プロパガンダと説得術の巧妙さは實に怖るべき実行力をもつてゐる。

鯉や猫は生理的な同化力だが、フラクションのように思想的な運動の場合には一般学生の分析力や、批判力が強ければ現実生活の牽引力が大きいから学生運動の上層部が思うほどたやすくは大学がおちないのだろうが、永年やつてきた朗誦筆記風な教育を、今もなお何の不思議もなくうけているようなところでは、ひとたまつもなくおちるといわねばならないだろう。

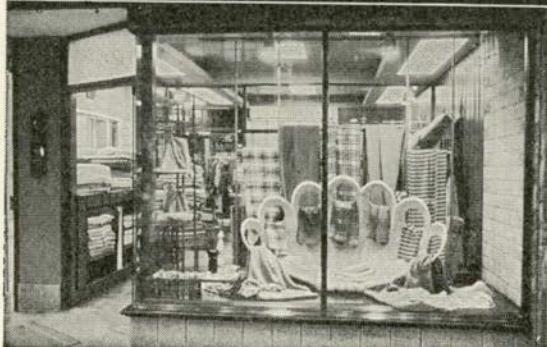
怖るべき現代的な力をもつものは猫、鯉そしてフラクションであろう。



Lady's Shop

La Mode

MOTOMACHI KOBE TEL ⑬ 5689



さわやかな緑の風……

マキシンの帽子が
お出かけを楽しくします



マキシンの帽子のおもとめは
全国有名百貨店でどうぞ！



SUN

FASHION
Lady's Wear



おしゃれな
あなたに
*ミセス
ブラウス

サン・ファッショ

神戸市生田区北長狭通6丁目
花隈会館3F TEL 078 (34)2813

*スーツ
*ワンピース

*ランジェリー
*ブラウス
*セーター



スギヤ

トア・ロード市電大丸電停前
TEL (33) 3436
六甲店・阪急六甲駅
TEL (87) 2731(呼)